

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3893600043
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム早雲
所在地	愛媛県喜多郡内子町大瀬中央5 6 6 2 番 2
自己評価作成日	平成24年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

内子町大瀬の、のどかな自然の中木造建築の建物がひととき引き立ちます。ご近所の皆様に暖かく見守って頂きながら地域に根差すグループホームを目指しています。毎朝元気にリハビリ体操を行っています。日常生活において、掃除、調理や洗濯など、それぞれが得意とする事に対し役割を持っていただき、自然に本人の意欲を引き出しています。今年は畑での野菜作りとグリーンカーテン作りに挑戦し夏の暑さを和らげ、裏庭が利用者様の憩いの場になってくれる事を願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●調査訪問時は、近所の方からいただいた粟で、「栗ご飯」を作っておられた。利用者が皮を剥いてくださったようだ。職員も、利用者と同じテーブルを囲み、ひとりの利用者が、「いただきます」と挨拶して、みんなと一緒に食べ始め、ほとんどの方が食べ終わり、「ごちそうさまでした」と、挨拶すると、それぞれ居室に入り、洗面台で歯磨きをされていた。お誕生日は、ご本人のお好きなメニューでお祝いされており、ほとんどの方が「おすし」を希望されるようだ。
●今夏は、利用者職員で、グリーンカーテン作りに挑戦された。ゴーヤやへちまの葉が茂り、実が育つ様子を、ベランダに出て観察されたり、日々の話題にもなり、楽しみながら取り組まれた。又、今年は、空き地を畑にして、夏はきゅうりやトマト、なすやオクラを育てられた。利用者は、苗を植えたり、草引きしたり収穫したりされ、外で活動する機会が増えたようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム早雲

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

森本あけみ

評価完了日

H24年 9月 14日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 地域理念を作り、地域との交流をはかるため、行事を計画実行し、職員も理念を理解し実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 「あいさつ 笑顔 感謝 尊敬 認めあう」という事業所理念と、「地域 家族 入居者が理解し合って信頼できる関係を築く」という地域理念に基づき、「昨年よりステップアップ」するために、すべての職員で今年目標について話し合い、「入所者様ひとり一人の思いを理解し、態度、言葉遣いに気を付けゆとりある生活支援を心がける」「家族と信頼関係を築き、思いや意見を気軽に言うていただけるように声掛けをしていく」「地域やご近所と交流し楽しい行事を実行する」と決め、理念の実践につなげておられる。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 地域の情報を知るため回覧板を回してもらったり、地域行事の農業祭や秋祭りに参加をしている。また、ホームで計画した行事にご近所の方が参加して下さったり、向かいのお子さんが時々遊びに来てくださる。地域のサロンの方たちとも豆入り作りを行いました。</p> <p>(外部評価) 事業所が地域向けに発行している「青葉～早雲号～」は、地域内の5地区の回覧板で回して下さっており、事業所の取り組み等を地域の方達に紹介されている。事業所のある団地内には、3軒の民家と、「新規就農業者研修滞在施設」があり、運営推進会議に参加して下さったり、収穫した野菜をおすそ分けして下さる等の交流がある。大工の方からもらった木切れを利用者が磨き、「積み木」を作って、地域の保育園にプレゼントされたこともある。8月には、地域の中学校から福祉体験で2名の生徒が来て、利用者と一緒に七夕飾りを作る等して交流された。管理者は、今後、「小・中学校の運動会等にも出かけ、高齢者の競技に参加して、地域の方達と楽しむ機会を増やしたい」と考えておられた。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 認知症の講演会を地域のグループホームの方たちと毎年行っており家族の方も参加して頂きました。大瀬中学校の福祉体験の受け入れもしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 定期的に運営推進会議を行い、職員やご家族、自治会長や区長ご近所の方に参加して頂き、行事や入所者の情報を伝え意見などをきいている。また、自己評価や外部評価を行う事を伝え改善なども報告して意見を聞いている。消防署の方に来て頂き心肺蘇生法やAEDの使用方法を講習して頂いたり、事業所の食事を一緒に食べたりもしています。</p> <p>(外部評価) 会議は、隣接する系列グループホームと合同で開催されており、自治会長、区長、民生委員、近隣住民、各グループホームよりご家族の代表者1名ずつに参加していただいている。事業所では、会議を「利用者の様子がわかるものになりたい」という思いから、利用者の日常や行事の様子を詳しく報告されている。昨年、外部評価実施後の会議時は、メンバーに目標達成計画を見ていただきながら、事業所のケアの質向上への今後の取り組みについて説明をされた。9月の会議は、利用者も参加して、隣接グループホームのテラスで芋炊きを楽しみながら、行事のビデオを見ていただいた。近隣子ども達も参加してくれ、「みんなで食べられて楽しかった」との感想であった。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、情報を共有している。事故報告書の提出やケアプランの提出をし、取組みを伝えている。また、町内のグループホームと管理者が会合を行っており、内子町グループホーム連絡会主催の認知症の研修会を行っている。</p> <p>(外部評価) 町内7ヶ所のグループホームが協働で、6月に「認知症の講演会」を開催された。町の社会福祉協議会に依頼をして、県の在宅介護支援センターから講師が来てくださり、地域の方やご家族とともに認知症の理解を深められた。又、9月に開催された町内のグループホーム合同運動会には、町役場の方も参加してくださる等、町内のグループホームと町役場、町の社会福祉協議会や地域包括支援センター等が協力し合い、認知症の高齢者等を支えるための取組みを展開しておられる。市の担当者に、運営推進会議に参加していただいた時には、「近隣の方に参加して頂き、アットホームな感じの会議で良いと思います」と感想をいただいた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束が何故いけないのか職員は理解しており、身体拘束をしない工夫をしている。日中は玄関に鍵をかけないケアを行っている。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、玄関は網戸になっていた。夜間、ベッドから降りる際、転倒が心配される利用者の方には、ベッドの手すりに鈴を付けて、鈴が鳴ると職員が駆けつけて見守るようにされていたり、床に直接布団を敷いて居られる方もある。ひとりで外に出かけようとする方には、職員が付き添って散歩されたり、裁縫や食事の下ごしらえ等、ご本人の「得意とされていること」をお願いして行なっていただくよう支援されている。昼食後、職員から、「たばことライター」を受け取り、ひとりでベランダに出られ、外の景色を眺めながら、たばこを吸われる利用者の様子がうかがえた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について管理者、職員は理解をしており、それぞれの行動に注意をし、気になる事があると声をかけあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用している人があり、どのような方が制度を利用しているか理解している。また、社内研修に参加し理解を深めた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居希望時に見学していただき、ホームを理解してもらい、重要事項の説明をしている。入居契約時にも説明をし納得していただいてから契約をしている。また、法令改正時には、説明をして納得して頂き同意を頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時や毎月の新聞で職員から声かけをし生活の様子が分かるように伝えている。利用者さんにも希望等ないか確認をしている。運営推進会議に家族の参加があり、話のできる機会を作っている。2月に家族会を行い職員と交流をし、気軽に話ができる関係を築いている。 (外部評価) 事業所便りを、毎月ご家族に送付されている。行事を写真入りで紹介されたり、新しい職員の紹介や退職した職員のお知らせも載せておられる。7月までは、利用者ご本人の暮らしぶり等を書いた手紙を同封されていたが、「マンネリ化している」こと等の理由から、便りの一角に「担当者からのコメント」欄を設けて、コメントを書くようにされた。家族会は、年1回行っておられ、2月に家族会を行われた時は、7名のご家族の参加があり、事業所から「看取り支援について」説明され、その後、利用者も一緒におはぎを作り、ご家族とともにおやつを楽しまれた。	事業所では、今後、「ご家族に参加していただける行事を増やしていきたい」と考えておられる。又、運営推進会議にも、ご家族の参加を増やす等、いろいろな機会を作り、ご家族と一緒に活動しながら、より具体的に意見や要望を引き出していかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価) ホーム長会議にて意見を出す事ができる。行事の企画は部長に確認してもらっており、職員の提案で行事を行うことができる。業務カンファレンスを行い、職員の意見を聞く機会を設けている。ケアカンファレンスでも気軽に意見を話し合える機会を設けている。</p> <p>(外部評価) 毎月の行事は、職員が順番で企画をされている。以前は、隣接グループホームと合同で便りを作成したり、外出やレクリエーションを行っていたが、この一年は、事業所独自でも支援しておられる。利用者からは、「行きたいところにも行ける」等と、喜ぶ様子もよくみられるようで、職員は、意欲的に事業所独自の取り組みをすすめておられる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価) 施設長やホーム長、副ホーム長の役職があり手当が付く。資格手当もあり、向上心を持って働けるよう整備している。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価) 南予地域の研修に参加したり、管理者研修やケアマネジャーの研修にも参加している。また、社内研修では口腔ケアと権利擁護の研修を行った。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>(自己評価) 管理者は社内においてホーム長会があり、情報の交換と共有をしている。また、内子町のGH連絡会においても情報交換と共有を行っており、職員間も勉強会を行いサービス向上に結び付けている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) 利用者様と話す機会をつくり、不安や希望を聞き、職員と利用者様との信頼関係を築いている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>見学者や入所希望者に対して、何に困っているか、不安なことは何か聞き、ホームについての説明を行っている。入居時には、在宅中の様子を聞き、家族の介護の大変さを理解し、信頼して頂ける様に努めている。</p>	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>本人と家族の希望を聞き、療養マッサージを利用されている利用者様がおられます。</p>	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様一人ひとりが能力に合った役割を持って生活をしている。また、お互いに協力したり、利用者様同士で声をかけ合い良い関係が出来る様に、仲に入り支え合える関係を築いている。</p>	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<p>(自己評価)</p> <p>定期的に家族が訪問し、自室にてお話してくつろいで一緒に過ごして頂いています。また、家族の方と一緒に外出される方もおられます。</p>	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>家族の協力を得て、本人の行きたい所へ連れて行って頂いたり、自宅への外出等ができています。また、ホームから本人の馴染みの場所へ外出も行っています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>法人全体では、「個別の外出支援」は難しいことから、利用者個々の馴染みの場所等へは、みんなで出かけられるよう取り組まれている。「家に帰りたい」と希望する利用者がおられた際には、ご自宅が海に近いことから、利用者全員で双海のシーサイドパークまでドライブをされた。海が見られたことで、ご本人は喜ばれ、安心されたようだ。ご本人宅には、みかん畑があったため、今後は、「みかん狩り等も計画したい」と考えておられた。居室に来年用の年賀ハガキを用意している方もみられた。これからご家族や知人等に向けて書かれるようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) フロアでテーブルを囲むように座り過ぎて頂いています。気の合った利用者様同士が座ったり、お互いの意見を尊重し理解しあえるよう声かけをしながら支え合うように支援を行っている。また、声かけをし手をつなぎあったりされています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去者には他施設に入所された方はいらっしゃらない為例がないが、ご葬儀には出席しています。入院中は、家族をフォローするため、職員が洗濯物を取りに行ったり、面会に行ったり支援しました。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望を聞き、困難な場合には行動から判断している。本人の思いシートを作成し活用できるようにしている。 (外部評価) 事業所では、前回の外部評価を受け、利用者個々の思いや意向を知るために、「利用者の思いや行動チェック表」を作り、「していた仕事」「してみたいこと」「昔やり残したこと」「今後どうしたいか」等の項目に沿って、利用者の情報を集めておられる。	管理者は、利用者ご本人から情報収集が難しく、又、知り得た情報を「どう活かすかが今後の課題」と話しておられた。知り得た情報をもとにして、利用者個々がさらにその人らしく暮らし続けるための支援につながるよう、介護計画に採り入れていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今までの暮らしを家族や本人から聞き情報を得るようにしている。他のサービスを利用していた場合は、そこから情報を提供して頂いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの1日の行動や言動をよく観察し、情報を共有したり見守りをしたりしている。ケアカンファレンスで昼夜逆転についても話し合っている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月のケアカンファレンス時にモニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直しを行っている。家族の方の訪問時や電話で計画を説明して、要望や意見をお聞きしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、管理者とケアマネジャー、利用者個々の担当職員が話し合っ立立てておられ、「できること、できそうなこと」に加えて「以前できていたことが、できるように」という視点から作成されている。介護計画は、毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎の計画の見直しにつなげておられる。職員は、ご家族の来訪時に、利用者の普段の様子等を具体的に報告して、支援への意見や要望を引き出せるよう努めておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別の介護記録や経過観察記録等毎日の行動を記録し、申し送りやケアカンファレンス等により情報を共有し、どのようにしたら良いケアが行えるかを考え実践し介護計画の見直しに活かしています。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>神南診療所との医療連携体制があり、医療連携ナースとも連携しているが、サービスの多機能化は特にありません。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>内子町社協、民生委員、生活指導員の方と連携があり、定期的な訪問を受けている。地域のサロンと交流を行っています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 現在は家族の希望により、神南診療所を全員主治医とされています。眼科は本人のかかりつけ医を継続しており受診支援をしています。また、歯科、皮フ科は協力医を受診しております。療養マッサージを利用されている方もおられます。</p> <p>(外部評価) かかりつけ医は、月2回往診があり、24時間電話での対応が可能である。眼科等、他科を受診される場合は、ご家族の状況等を考慮して職員が付き添われることもある。歯科治療が必要な場合は、訪問歯科が利用できる。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 定期的に医療連携ナースの訪問があり、職員がその都度利用者の様子を報告して指示を受けている。また、電話連絡により相談し、指示が受けれるようにしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) サマリーなどで情報交換し、入院中や退院時の情報をとっています。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 契約時にグループホームにおいて看取りまで出来ることを説明して重度化、終末期の指針も説明し、家族の希望をその都度聞き、支援できるようにしています。職員同士で看取りについての話し合いをし、家族会でも看取りについて話し合いをしました。本人の意向を話してくれた入所者様もいました。</p> <p>(外部評価) 利用契約時に、「事業所での看取り支援が可能」であることを伝えておられる。管理者は、ご家族は、現在は、「ここに入れてよかった」という思いが強く、「終末期の希望を具体的にお聞きする時期ではない」と考えておられ、今後、利用者の状態に応じて話し合っていくこととされている。今後、利用者一人ひとりの思いや希望等を探りながら、最期までその人らしい支援ができるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 最近急変される方もなく落ち着いておられます。急変時には冷静に対応できている。救命講習を定期的に行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署や近隣住民と共に訓練を行っており、参加者全員で反省会を行い、災害対策に対し協力をしていただける関係を築いている。また、12月には地区の自主防災訓練を行い、その際には地震により事業所から火災が発生したことを想定して地区全体で取り組みました。地域の消防団の協力や消火栓の確認が出来ました。	
			(外部評価) 年2回、消防署の協力を得て、隣接のグループホームと合同で避難訓練を実施されている。10月の避難訓練は昼間の火災を想定して行われ、利用者は玄関前まで避難をされた。いざという時は、地域の方が外に避難した利用者の見守りをしてくださるようになっている。来年2月には、夜間想定での避難訓練を計画されている。7月の運営推進会議では、消防の方より救命救急法やAED(自動体外式除細動器)の使い方等について、地域の方も一緒に講習を受けられた。小学校、中学校、自治センター等、地域にあるAEDの所在地について確認をされた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりのプライバシーを尊重し、プライドを傷つけないように言葉使いにも気を付け対応している。また、利用者様同士のコミュニケーションが取れる様に仲に入り対応している。	
			(外部評価) 「○○と○○、どちらにしますか」と、メニューについて、利用者を選んでいただけるよう、言葉をかけておられた。管理者は、今後、「利用者同士が手を握り合っ、同年代の人たちとの関係作り」ができるよう、支援していきたいと考えておられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、本人の思いや希望を職員に気軽に話して頂ける様声かけし接していくよう努め、本人の希望等にそえるようつとめています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの一日のペースを把握し、できる事やしてみたい事に声かけし、希望がある事はできるよう支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人が着たい服を自由に選び着て頂いている。出張美容を利用しカット、パーマ、毛染め、顔そりをしていただき、おしゃれが出来る様に支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好きな食べ物、嫌いな食べ物を知り、色どりなど盛り付けにも工夫を凝らし食欲が出る様努めている。また、野菜切り、味付けにも参加して頂き、洗い物や食器拭きにも声かけをし利用者の皆さんが協力して手伝って頂いている。ホームで取れた野菜を利用して調理する事もある。	
			(外部評価) 法人のグループホームが順番で、1ヶ月ごと献立を作るようになっている。野菜等、近所からのいただき物や、事業所の畑で採れたもの等がある時は、献立を変更することもある。食材は、地元の商店等に届けてもらっており、魚は骨を取って、利用者が食べやすいようにしてくださっている。調査訪問時は、近所の方からいただいた栗で、「栗ご飯」を作っておられた。利用者が皮を剥いてくださったようだ。職員も、利用者と同じテーブルを囲み、ひとりの利用者が、「いただきます」と挨拶して、みなと一緒に食べ始め、ほとんどの方が食べ終わり、「ごちそうさまでした」と、挨拶すると、それぞれ居室に入り、洗面台で歯磨きをされていた。お誕生日は、ご本人のお好きなメニューでお祝いされており、ほとんどの方が「おすし」を希望されるようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量を理解し盛り付けを行ったり摂取量の記録や好みの水分を理解し必要量が取れるように支援しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事後声掛けし口腔内の清潔保持に努めています。また、1人で出来ない方に対しては職員が声掛けや誘導等の介助を行い、一人ひとりに合った口腔ケアを行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンや行動を知り、それぞれの方に合った排泄支援を行っています。</p> <p>(外部評価) 事業所では、なるべくトイレで排泄できるよう支援されている。日中布パンツで過ごす方も、夜間は、「心配で眠れない」と言われる方もあり、ご本人の安心のため、夜間は紙パンツを使用する方もいる。夜間、職員は、利用者に「居室でパッドだけ交換するか、トイレに行かれるか」お聞きして、ご本人の希望等も踏まえて支援されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 毎日、排便の回数を記録し便秘がみられる利用者には水分を多めに摂って頂いたり、運動の声かけを行っています。強い便秘のみられる利用者には主治医と相談し、薬を処方して頂き対応しています。食事にも工夫し繊維質のものを摂って頂ける様にしています。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 毎日入浴できるようにしているが、行事等がある場合は2日～3日で入浴できるように支援しています。また、希望を聞きシャワー浴にされる方もあります。(夏場)</p> <p>(外部評価) 基本的には、一日おきに、午後から入浴することになっている。現在、毎日の入浴を希望される方や、時間や順番の希望はないようだ。利用者はみな、浴槽で温まれるよう支援されており、利用者がリラックスして入浴できるよう、職員は、一緒に歌を歌うようなこともある。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 日中でもお部屋で休んでもらったり、フロアの畳で休んでもらうようにしています。夜間は、一人ひとりのリズムで休んでもらうただき不眠時には話をしたり飲み物を進めるなど安心してもらえるよう対応しています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服薬への支援をしている。使用している薬が何の病気の薬か理解している。また、服薬表を作り副作用などの理解をするよう努力している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりが出来る事を把握し、それに合った支援をし役割を担ってもらっている。嗜好品を理解し支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりのその日の体調に合わせてホームの周囲を散歩したり日光浴ができるように支援しています。また、月に1~2度は内子、大洲などへ買い物に出かけ気分転換を図ってもらっている。地域行事(運動会・保育所訪問)等にも出かけて地域の方々と触れ合っている。早雲独自の新聞や壁新聞にて利用者様一人ひとりの様子を伝える事ができるようになった。	
			(外部評価) 月に1~2回、地元や市外のスーパー等へ買い物に出かけられる。7月には、西予市の観音水のそうめん流しに全員で出かけられた。地域の農業祭には、3名の利用者が職員と出かけられ、輪投げをして景品が当り、喜ばれたようだ。日頃は、お天気のよい日に、団地の入り口まで散歩することもある。桜や菖蒲等、季節の花を見に行かれることもあるが、職員は、外出を喜ぶ利用者も多くおられ、「季節を感じられる外出をもっと多く採り入れたい」と話しておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の理解の上で少額のお金を自分で管理している人もいる。買い物外出時には、自分で支払いができるように援助している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の取次ぎや親族の方から来た手紙への返事の手紙を書いていただけるよう声かけ等支援しています。携帯電話を所持している方もいらっやいます。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用空間において自由に行動して頂いており、冷暖房を必要に応じて使用し快適にホーム内で過ごして頂いています。季節ごとの花を飾ったり、利用者の方と一緒に季節感のあるちぎり絵を作成してフロア内に展示しています。</p> <p>(外部評価) 居間の壁には、利用者と職員と一緒に作った、「壁新聞」を掲示し、行事等の写真を大きく引き伸ばして利用者も見やすいようにされていた。今夏は、利用者と職員で、グリーンカーテン作りに挑戦された。ゴーヤやへちまの葉が茂り、実が育つ様子を、ベランダに出て観察されたり、日々話題にもなり、楽しみながら取り組まれた。又、今年、空き地を畑にして、夏はきゅうりやトマト、なすやオクラを育てられた。利用者は、苗を植えたり、草引きしたり収穫したりされて、外で活動する機会が増えたようだ。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 畳で過ごして頂いたり、台所に誘ったり、共用空間に居ながら少しはなれる事ができるように対応しています。気の合う人がとどりに来るような配慮をしています。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人が馴染みのある物を持ち込んでいただけるようにしている。住み慣れた部屋のようにして居心地のいい居室になるように、見慣れた物をかざり生活感があるように工夫しています。また、フロアの椅子では対応できない方には家族の方に頼み自宅で使用していた椅子を持ってきて頂きました。</p> <p>(外部評価) 居室には、洗面台が整備されており、ヘアブラシや整髪料を用意している方もみられた。利用者によっては、居室に観葉植物を置いて、ご自分で水遣り等、お世話する方もいる。仏壇や位牌、テレビを持ち込まれている方やご家族の写真をタンスの上に飾っている方もみられた。どの居室からも、外の樹木や草花等が眺められ、季節を感じるできるようになっている。ご自分の居室の場所が分かりにくい方には、居間からよく見えるように、居室入口に名前を大きく貼り出されて、間違うことなくご自分の居室に戻ることできて、ご本人も安心されているようだ。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりが自分の部屋がわかる様に名前を出入りに貼ったり、トイレがわかる様に表示したり、一人でも移動、行動できるように工夫している。建物内はバリアフリーになっている。</p>	